

## 社員のネットリスク予防

—ブログ・掲示板・機密漏洩ほか、情報トラブルを回避する方法—

ネット情報セキュリティ研究会 代表 田淵 義朗

### ■ネットトラブル多発時代の社員管理とは

仕事も私生活もインターネットの時代です。ネットは利便性が高い反面、多くの問題を会社にもたらしました。業務に関係ないメールやホームページ閲覧、ソフト持ち込みによるウィルス感染、ブログの書き込みによる会社の営業秘密漏洩など、社員のちょっとした行為が情報トラブルを生み、会社のリスクを高めています。さらに深刻な問題は、ネットでの執拗なクレーム、誹謗・中傷など、法律に違反しかねない行為を起こす社員の増加です。最近では、個人の問題にとどまらず、会社の監督責任にまで発展しかねない事態を生んでいます。

インターネット時代は、個人と会社の境界線をあいまいにしています。今までの就業規則や社内のルールでは時代遅れであり、新しい時代に対応したルールや対策が会社に求められるようになっていきます。

本稿では、今ネットで何が起きているのかを知り、会社が取るべき対策についてポイントを解説します。

(著者)

#### ■田淵 義朗 (たぶち よしろう) :

1956年神戸市生まれ。1980年中央大学法学部法律学科卒。大手メディア企業 (出版、ソフトウェア、映画) にてコンテンツビジネスを経験。デジタル時代の本格的な到来を機に、1993年独立。ITコンサルタント、情報セキュリティコンサルタントとして、情報漏洩の調査や誹謗中傷問題に取り組む。企業、政府関連、地方自治体、経済団体、大学などでの情報リテラシー教育研修や講演実績多数。著書に『間違いだらけの個人情報保護法対策』(ナツメ社)、『インターネット時代の就業規則』『ネット (攻撃・クレーム・中傷) 傾向と即決対策』(明日香出版社)、『45分でわかる個人情報保護』(日経BP社) ほか。現在、IT・コンプライアンス研修で全国の会社を回っている。

### 構成

#### 1 技術的セキュリティより人的セキュリティが重要

#### 2 今起きている問題とは？

- (1)多発するネットトラブル
- (2)ネット環境の変化に対応できていない
- (3)ネット社会やブログ社員が悪者なのか

#### 3 予防対策のフレームワーク

##### [3-1] ネットクレーム・告発トラブル

##### [3-2] ネットでの誹謗・中傷トラブル

- (1)名誉毀損罪および侮辱罪が適用される「書き込み」
- (2)脅迫罪が適用される「書き込み」
- (3)信用毀損罪が適用される「書き込み」
- (4)業務妨害罪が適用される「書き込み」

##### [3-3] 個人情報・機密情報漏洩トラブル

- (1)PC, 携帯, 書類の紛失・盗難
- (2)メールの誤送信
- (3)ファイル交換ソフト(Winnyなど)
- (4)PCの廃棄や譲渡による機密情報の流出
- (5)コンタミネーション(情報混入)の危険性

#### 4 情報漏洩を防止する具体策

- (1)就業規則の整備
- (2)社内での情報管理体制の確立  
・ネットリスク予防・サービス規定の例
- (3)情報セキュリティ教育の実施  
・セキュリティガイドラインの例
- (4)情報漏洩を発見した場合の対処法

#### 5 社員のネットリスク予防Q&A